

“Zoom-Zoom”な世界の実現を目指して —安全と人材育成を願う2つの取り組み

マツダ(株) CSR・環境部

主幹 ^{かど} 角 和宏

マツダのブランドメッセージ“Zoom-Zoom”(車が走るブーブーという音の英語表現)には、「子どもの頃に感じた動くものへの憧れ、走る喜びをずっと持ち続けてほしい」という気持ちが込められている。Zoom-Zoomな世界の感動を愛し持ち続ける人々に、創造性と革新性で「心ときめくドライビング体験」を提供したいというマツダの想いを示している。

120以上の国・地域でビジネスを展開しているマツダは、持続可能な社会の実現に寄与するために、社会課題に積極的・継続的に取り組んでいる。また、それぞれの地域のニーズに即した取り組みを行い、良き企業市民としての責任を果たそうとしている。社会貢献活動の柱は3つ。1つ目は自動車メーカーの責務としての「環境・安全」、2つ目は次世代を担う若者の育成を目指す「人材育成」、3つ目は地域の社会課題の解決に取り組む「地域貢献」である。本稿では安全と人材育成の2つの取り組みを紹介したい。

プロジェクト・イエロー・ライト(米国)

携帯電話やスマートフォンの操作をしながら車を運転する若者が多いと言われている。その危険性を若者たちや子どもたちに理解してもらいたいということがプログラムを始めた動機である。この新しい社会課題を、自動車会社として何とか解決に協力したいということで、2012年から「プロジェクト・イエロー・ライト(以下、PYL)」の支援活動を始めた。

PYLは「ハンター・ガーナー奨学金」(非営利団体)を母体に、「公共広告機構」(米国運輸省道路交通

安全局)「青少年の安全を守る全国組織」が始めた活動である。PYLは、運転中のスマートフォン操作の危険性を訴える60秒の公共広告映像作品を全米の高校生や大学生から募集し、制作奨学金を贈呈している。マツダ(マツダノースアメリカンオペレーションズ)は2012年からこの奨学金制度に協力している。

最優秀作品は1500を超えるテレビ局からなるネットワークを通じて全米で放映される。そのため、子どもたちだけではなく全ての人を対象に、「ながら運転」(携帯電話の操作等、運転をしながら別の行動をすること)の危険性を理解してもらう啓発活動となっている。

また、PYLの活動の1つとして、マツダ・モータースポーツに関わる若いドライバーがレース開催場所の各大学や高校で、安全な運転について講義をする「出前授業」を実施している。単に教科

安全運転を呼びかける
プロドライバーKenton Koch(プロドライバー)
の車にもPYLのステッカー参加者にリストバンド
をプレゼント

書で学ぶのではなく、本物のレーザーによる「僕たちも気をつけているよ。君たちもやってね」という呼びかけには説得力があり、子どもたちも興味を持って話を聞き、実際の行動に移してくれる。

「走る喜び」を訴えるモータースポーツと関連付けた交通安全啓発は、マツダの企業イメージ、ブランドイメージと一致する重要な社会貢献活動となりつつある。



麦苗クラス訪問時に学校と生徒にアテンザ・ミニチュアを贈呈



麦苗クラスの生徒から届いた手紙

マツダ麦苗クラス（中国・四川省）

「麦田プロジェクト教育基金会」は2005年に中国で最初に設立された民間慈善公益団体。教育基金会とマツダ（マツダ（中国）企業管理有限公司）との話し合いの結果、中国の教育事業に協力しようということになり、2012年9月から提携はスタートした。目的は経済的に恵まれない子どもたちを経済面・精神面で支援するもの。子どもたちの育成という、中国における社会課題解決にも貢献している。

麦田とは、「一面に揺らぐ金色の麦畑（中国語は麦田）」の収穫の喜びに憧れを抱いて基金創設者が付けた名前。マツダはこれを支援して現地の学校と提携、「小さな苗が健やかに育ち金色の麦の“田んぼ”に成長できる」ことを願い、「マツダ麦苗クラス（以下、麦苗クラス）」と名付けたクラスをスタートさせた。

麦苗クラスには、経済的な理由で教科書以外の本を読めない生徒が多い。そこで、図書館の設立資金と図書を贈呈することにし、2013年7月に開館した。小さい頃から感謝の気持ちを持って勉強に頑張り、「いつかは社会に貢献したい」という気持ちになってもらうことで、よりよい社会ができるのではないかと考えている。担当の先生からも、「勉強に取り組む環境が整って以前より熱心に学んでいる」と感謝されている。

経済的援助に加えて精神



山あいを通学する子どもたち（四川省大凉山）



子どもたちが感謝の歌とダンスを披露

面での支援も大事だと考え、現地のマツダ社員と麦苗クラスの50人の子どもたちとの1対1の文通も始めた。この活動はCSR専門雑誌にも取り上げられ、現地の社員からも「子どもたちと共に私たちも成長できるこの取り組みに誇りを感じています」との声が寄せられた。参画している社員がイキイキとし、マツダで働くことに誇りを持ってくれることは、社員のモチベーション向上にも好影響を与えている。

*

社内外に喜ばれる活動がさらに増えることを目的とし、「マツダ社会貢献活動優秀賞」を2015年3月に創設、①社会の課題を解決しているか、②企業価値の向上に貢献しているか、③マツダらしい社会貢献か、という3つの指標に基づいて評価するようにした。第1回目の評価の結果、PYLが特別賞、麦苗クラスは奨励賞として表彰された。現地の企画で生まれた2つの取り組みが共に表彰されたことは、現地社員のイキイキ度とやる気をさらに上げる助けになると確信している。

世界各地での社会課題解決に向けての活動が、Zoom-Zoomな世界と持続的な社会の実現につながることを私たちは願っている。

◆マツダのCSR取り組み
<http://www.mazda.com/ja/csr/>